

椎葉村瀧春山集落 集落元気づくりだより

平成 21 年 12 月 20 日
第 2 号

第 2 回 集落元気づくりのための寄合い開催される！

平成 21 年 12 月 7 日(月)に瀧集会センターで、第 2 回集落元気づくりのための寄合いを開催しました。

底冷えのする中、瀧集会センターには、集落住民 6 世帯 7 名、周辺集落 1 名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

第一回寄合いに続き、今回は集落元気づくりの取組として考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に 2 グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げました。

集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいことを調整する作業はみんなが真剣勝負でした。



寒い夜でしたが、会場には多くの参加者の皆さんが

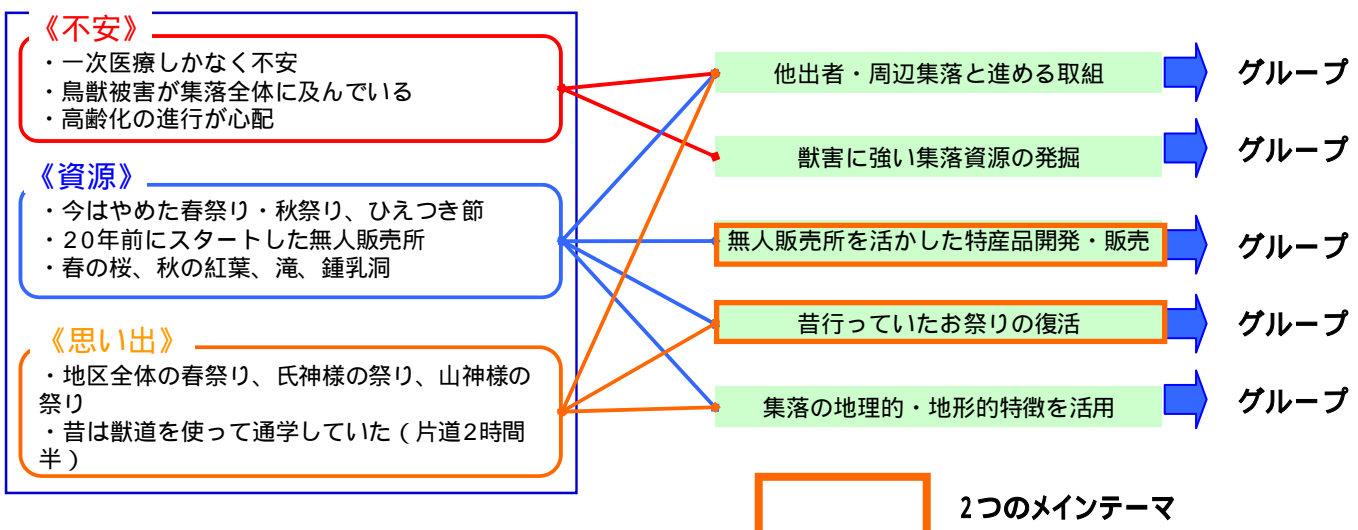
議論されたテーマは「昔行っていた春祭り、秋祭りの復活」、 「無人販売所の活用と地域特産品づくり」

の 2 テーマ！！！！

第一回寄合いにおいて、集落の「不安」と「資源」、「思い出」について議論を行い、議論を通じて見出されたキーワードを分析し、5つのテーマを選び出しました(下図)。その後5つのテーマを、2つのメインテーマと3つのサブテーマに分類しました。

第 1 回寄合いからのキーワード

キーワードより選び出された5つのテーマ



テーマ 「的の狙いは人のつながり」

以前の瀧春山集落の祭りは、集落各世帯が持ち回りでの射を行うなど、集落の大人も子供も楽しめる行事でした。また、瀧春山集落は芸達者な人が多く、即興で歌や踊りに興じるなど、祭を盛りあげていました。しかし、6年前から集落では行事が行われなくなり、後継者世代も近隣の集落に移り住むなど、祭の継承が困難な状況になっています。

グループでは、集落の継続と活性化のために、昔行っていた春祭りや秋祭りを復活できないか、また、祭の開催を通じて周辺集落と連携し、地域全体としての活性化が図れないかという点を中心に話し合いを進めていきました。

まず一同は、「的射は終わった後の宴会も楽しかった」、「的射は縁起もので、春祭りやふちあげ（年明け）に行った」、「集落に子どもがいたころは、2月14日にもぐら打ちがおこなわれ、各家に子どもたちが来て、地面をたたくのを見るのがほほえましかった」等、昔の祭りの思い出話で盛り上がりました。

そして、もう一度祭りを開催するためにどうしたらよいかと、「的射」と「もぐら打ち」に焦点を絞り、開催のための方策を皆さんで考えました。



的射の思い出話に熱が入り、思わず身ぶり手ぶりで



考え込む右田さんと見守る北園先生



的射の楽しみはやっぱり終わってからの宴会と久さん



話し合いの成果は全てこの中に集約されています

「的射は各家で行うのではなく、各集会所でそれぞれ持ちまわりで開催すれば良い」、「的射の最大の楽しみである宴会も、昔のように各家がもてなすのではなく、皆で集会所に食材を持ち込めば、各家の負担が少なくなり開催しやすい」、「飲んで帰れば飲酒運転になるが、集会所で寝て帰れば摘発されることもない」と、的射の再開には一同が段取りを思いつき、明日にも再開できそうな雰囲気になりあふれました。

もぐら打ちの再開を検討すると、「主役となる子どもが瀧春山集落にはほとんどいない」、「最近の子供は部活動などで忙しい」等の再開にあたっての問題点が見いだされました。

問題点解決に向けて、「他集落の子どもが瀧春山集落にきてくれれば子どもの声が聞けるだけでもうれしい」、「日付はずらせないが時間はずらせるので、子どものスケジュールに合わせられる」という意見が出て、最後には松木・横野集落にお願いして子ども達に来てもらい、尾八重地区全体でもぐら打ちの再開に取り組んでいくと良いのでは、という取組となりました。

テーマ 「瀧のしずくで集落づくり」

瀧春山集落には 20 年も続いた無人販売所があり、家庭で生産される野菜や山菜を、直接あるいは加工して年間を通じて販売し、集落の高齢者の楽しみの一つとなっていますが、「集落人口が減少していく中で無人販売所を今後どのように維持していくか」という課題を抱えています。

そこで、無人販売所の継続による集落活性化のために、今までとは異なる視点から無人販売所の運営方法と集落の資源を見直し、新たな無人販売所の在り方と、無人販売所で販売できる集落特産品の発掘を試みました。

しかし、無人販売所の運営方法を現在と異なる形にするには困難があることがわかり、現在販売されている商品の他に、100 円で販売できる集落特産品はほとんどないことも判明しました。

その後、多くの課題が生じ、議論が行き詰まりかけた時、話し合いの進行役より宗像市地島で現在行われているやぶ椿を活かした特産品づくりの事例が紹介されました。今までだれも集落の特産品だとは思っていなかった山に自生する“やぶ椿”が、集落の新しい特産品になるのではと話がはずみます。“やぶ椿”は

- 「野菜や林産物と異なり鳥獣被害がない」
- 「花の蜜は集落特産品であるミツバチの蜂蜜の元」
- 「絞り油は多用途に使えるため販売できる」
- 「油を絞った後の絞り粕は高級肥料となる」



瀧春山集落の 20 年続く無人販売所



話に頷かれるシズ子さんと直義さん



討議の成果をプロジェクトシートにまとめます



発言内容に照れるマサエさん

という特徴を持ち、特産品として好条件を備えています。また、花は景観を彩り、新しい観光名所をつくることも出来ます。

一同はこのような“やぶ椿”の特徴に納得し、“やぶ椿”を新たな地域特産品とするプロジェクトの方向性が固まりました。

その後、話し合いは“やぶ椿”の自生場所と移植技術を持つ人の確認や、景観植物とするための植樹場所の検討、椿油を採取できる加工所の心当たり、種子の簡単な採取方法等、実際に“やぶ椿”を特産品とするための方法について討議が進み、その成果をプロジェクトシートにまとめることが出来ました。

こうして、話し合いが進むにつれ、集落の継続と活性化のためには、無人販売所の継続にこだわらず、集落の自前資金をねん出できる集落活動に取り組む必要があるのではないだろうかという意見が出されました。

この意見を検討した結果、瀧春山集落が有する山林、清流から新たな集落資源を発掘し、地域特産品として集落外に販売できれば集落の自前資金が確保でき、集落の継続と活性化を図れ、無人販売所も維持できるのではないかと同時に一同が合意しました。

寄合いに参加した私の感想

寄合いに参加された皆さんの感想と、私がやってもよい取組として挙げられた意見を紹介いたします。

代表的な感想

- ・ これからどうするものかと思う事が多々ありましたが、道筋・明かりを見つけた気持ちで嬉しく思いました。
- ・ 集落で一番身近な問題でよかった。集落の将来について皆が心配していることが理解できた。
- ・ 明かりと光を見出したと思い、気づかせてもらいました。前回、今回の話し合いは心に残りました。これからの仕事の合間に思い出して元気を出します。
- ・ やはり昔の話になると、話が尽きず盛り上がった。
- ・ 気安く話しが出来、話す事により、人の輪が作れた。



椿が植えられて彩られる日も近い？

この取組なら私がやります！！

《椿油加工》

加工、販売を通じて他出者や地区外の人との交流が出来るのでとても楽しみです。植え付けや管理に取り組みたいと思います。

《的射》

伝統芸能は、集落の元気のもとであり、話がまとまりやすいと思います。祭りが復活すれば、昔を思い出して準備をします。

熊本大学 北園先生の講評

北園芳人先生は熊本大学で、まちづくりや地域防災などの分野を研究されており、自主防災組織や危機管理のための取組を各地で指導されておられます。先生の寄合い後の講評です。

皆さんが、一生懸命に時間が足りないというくらい話されているのをお聞きすると、集落に対する色々な思いがあって、話し出したら止まらないのだなと強く感じました。

今日、色々なプロジェクトのアイデアが話し合われましたが、この結果をいかに実現し、次の世代の人に伝えて行くかということが今後重要になってきます。

例えば、もぐら打ちをお爺さんお婆さんからお孫さんの方まで 3 世代が参加できる祭りとして再興できれば、世代が交代しても新しい世代が順繰りに参加していけるので、祭りを継続していけます。

また、今日も集落づくりについて色々な話が出ましたけれど、やはり基本は人と人の繋がりこそが集落を盛り上げていくということです。

これからは、今日ここで話し合った内容を出発点に、集落内外に新しい形での 20 年 30 年に渡る人と人の繋がりを築き、子供さんたちやお孫さん達に楽しみを与えられる、集落づくりを進めていきたいと思いました。



寄合い終了後に講評される北園先生